

総合調整会議の概略（2011.2.16）

日 時：平成23年2月16日（水）8：50～10：30

場 所：栗東市役所4階傍聴者控室

出席者：市長、教育長、部長等

1. 市長の挨拶

[市長]

・マスコミへの対応マニュアルについて、迅速に対応できるように検討願いたい。施政方針・教育方針について、17日の議会協議会に提示するので今後職員にも周知願いたい。3月議会については、重要案件が多いので準備に万全を期してほしい。

2. 審議事項

平成23年度組織改編について

総務部長、総務課長から説明

3月議会へは部設置条例の改正議案の上程を予定している。平成23年度組織体制は、6部4局34課（平成22年度、4部4局32課）で、職員数は465名（平成22年度末462名）となる。市民に解りやすく利用しやすい組織とすること、また、市長の公約や施政方針を実現すること、並びに職員が働きやすく、事務事業が効率的に進められることを目的に組織改編を行う。

区分：決定

危機対応について

総務部理事、危機管理課長から説明

前回の会議の中でいろいろご意見を頂き、近隣市の組織体制等について、本日組織改編の話があったので、今回はご意見を頂戴するという事で進めたい。要点をいうと、学校・園、高齢者、山岳・水難時の行方不明者については、草津市や大津市など、規模の大きい市は、各担当部局による対応に対して、守山市や野洲市などの規模の小さい市は、初期段階から危機管理案件として全庁的に対応しているようである。何れにしても、危機管理部門と、担当部署との連携は不可欠であるが、来年度は組織体制が変わるので、市民に解りやすくという面では、危機管理部局が中心になって対応していくほうが解りやすいようにも思うがどうか。

[環境経済部長]

・金勝山での行方不明の事案でいうと、現地に担当が出てしまい、担当部署ですべて対応するのは、組織的にも人間的にも難しいので、現場については担当課が対応に当たればよいが、庁内の組織体制としては、守山市のようなやり方のほうがよいのでは。

[教育部長]

・危機管理という考え方でいえば、小さい組織でもあり、情報の一元化するほうが良いので、守山市のように当然どこかの部署が責任もってすべてについて一旦受けて対応し、その後、事案の大小についてはそこで仕分けしていくほうがよいのではないかと。

[議会事務局長]

・台風や水防についても、今後は一元化していくということになるのか。

[総務部理事]

・台風や水防については、地域防災計画に基づき対応している。情報をもっているのは原課なので、連携が図れればよいと思うが。市の規模としては、ちょうど中間にあたるので、その辺を踏まえてどう考えるかということになる。

[総務部理事（新駅問題担当）]

・水防については、建設部あげて対応しているので、現場の者と情報管理する者が常に存在しているが、行方不明等については、課・係などの小さい組織で対応しているので、事案の規模が大きいと人員が不足し情報管理が難しいことから、部単位での組織体制を取ることを検討してみてもよいのでは。

[建設部長]

・これまで大きな災害はなかったが、本当に災害が起きたときに備え、誰が主となってやるのかははっきりさせるべきである。

[総務部長]

・司令塔は危機管理にしておいて、個々の事案については担当課が対応に当たる。その中で危機管理事案にあたるものについては、危機管理に報告の上で、危機管理は司令の分野として指揮にあたり、担当課は現場対応にあたるほうが良いのでは。

[健康福祉部長]

・鳥インフルエンザの場合についても、新型インフルエンザ同様に危機管理の対応としてほしい。

[環境経済部長]

・鳥インフルについては、ケースにより対応する組織が変わるので非常に複雑である。

[市長]

・今回の件が、組織を変えるひとつの契機として、防災計画なども見ながら今後について整理していく必要がある。

[総務部理事]

・また機会を設けてまとめていくこととする。

区分：再 議

3 . 報告事項

平成 2 2 年度品質目標管理について

各部長より、事業進捗状況等について報告

[市長]

・単年度で出来ないものについては、翌年に向けての取組を十分念頭に置きながら整理しておいて頂きたい。

区分：了解

以上